

磐井川地区直轄地すべり防止事業の概要（H30完了）

東北森林管理局

一関市街に壊滅的な被害を及ぼした昭和22年のカスリン台風、23年のアイオン台風により、磐井川流域は地すべりや山腹崩壊が多数発生しました。そのため昭和24年度から昭和30年度にかけて民有林直轄治山事業として溪間工主体の対策を行ってきましたが、昭和30年代になり融雪等により地すべりが活発化したことから、岩手県や一関市からの国による直轄事業の強い要請を受け、昭和44年度から直轄地すべり防止事業を実施してきました。

当初は、産女川区域を対象とした全体計画が策定され事業が開始されましたが、その後の融雪や豪雨、平成20年岩手・宮城内陸地震により事業地周辺でも地すべりが発生したことなどから、事業区域や対策工の見直しを行うなど全体計画を変更しながら対策を実施してきました。

対策工は豊富な地下水を排除するための排水トンネル工や集水井工等の地下水排除工を主体とし、地すべり末端の侵食を抑える溪間工等も実施してきました。また、地震により発生した地すべりには、アンカー工や杭工等の抑止工を実施してきました。

平成29年度に開催した概成検討委員会では、これらの対策工による効果をすべての地すべりブロックに対して判断し、概成は妥当であると判定されました。平成30年度には施設の補修等計画した治山施設の整備がすべて完了し、所期の目的が達成されたため、平成31年3月31日をもって本事業を完了しました。

■事業の実績

地区名	磐井川地区	事業種	地すべり
施工区域	岩手県一関市巖美町大字瑞山字横森地内ほか		
区域面積	1,689ha		
施工期間	昭和44年度～平成30年度		
総工事費	15,417,338千円		
整備数量	排水トンネル工 1,873m、集水井工 131基、谷止工 50基、床固工 56基、排土工・押え盛土工 65,177.2m ³ 、アンカー工 200本、杭工 408本、その他山腹工ほか		
実施主体	岩手南部森林管理署 巖美治山事業所		

■復旧状況遠景

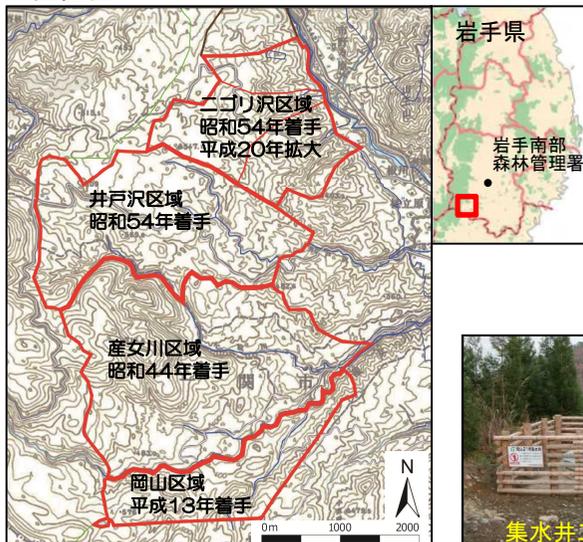


ニゴリ沢区域市野々原
平成20年の内陸地震で発生した地すべり



復旧され緑が回復してきた平成26年の状況

■位置図



■整備した治山施設



集水井工内部の状況



排水トンネル工内部の状況



集水井工地上部の状況

磐井川地区の地質は地下水が集まりやすく、豊富な地下水を取り除くため、多くの集水井工や、排水トンネル工を整備しています。ニゴリ沢排水トンネルから排水される地下水は、毎分約1,500ℓもの量となり、地すべりの滑動を抑制するとともに、一関簡易水道の資源としても利用され、地域に貢献しています。

■完了記念式典を開催

平成30年12月18日、一関市内のホテルにおいて事業完了に伴う記念式典を開催しました。県、市の関係者や施工業者、地元地権者の代表等が出席し、これまでの事業の経過を振り返るとともに、小島局長から県へ治山施設等引継ぎの目録を手渡しました。



(左から勝部一関市長、遠増岩手県知事、小島局長、大政林野庁治山課長)